

St. Luke's International University Repository

聖路加看護大学年報: 2008年度 (平成20年度)

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-01-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10285/4728 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



XII 情報ネットワーク

1. 情報システムの運用状況

本年度情報システム委員会の構成メンバーは、教員3名、図書館職員1名、事務部職員1名、研究支援室職員1名の計6名で、委員会は年間11回開催した。また、教職員のみの委員会活動に加え、本学学生の情報システム委員を各学年1～2名選出し、学生との合同委員会も活動の一つと位置づけ、学生合同情報システム委員会を年間4回開催した。さらに、情報システムを専門とするチューター1名やシステムエンジニア(SE, 派遣職員)1名にも必要時に委員会に参加してもらい、これら全体の協働により、情報システムの適正な運用を図った。

新入生については、昨年度に引き続き、新入生を対象としたコンピュータ利用に関するオリエンテーションをカリキュラムの一環として位置づけられた「情報処理演習」の講義の中で、コンピュータネットワークの利用方法や注意点等を教育する時間を設け、適正な利用のための働きかけを行った。在校生には、5月に本学派遣SEによる新サーバシステム特別説明会を開催し、新システムの情報の利用について理解を促した。

また、学生懲戒処分規程と「聖路加看護大学コンピュータネットワーク倫理規程違反行為に対する調査および処分についての申し合わせ」の整合性を再検討し、「聖路加看護大学コンピュータネットワーク倫理規程」を見直した。

この倫理規程の見直しに伴い、情報倫理の教育活動を目的として、利用者が陥りやすい問題を例示するなどの工夫をしながら作成した「情報倫理ガイドブック」を改訂した。「情報倫理ガイドブック」は学生便覧の中に入れ込み、倫理規程の周知と遵守について全学生への徹底普及を図った。

このほか、情報システム委員会規程を新たに作成した。委員会活動がこれまで以上に組織的で円滑に行われるものと期待される。

これらの取り組みによりコンピュータおよび情報の利用について教職員および学生への啓発が図られた。

また、情報システム環境の整備に関しては、SEとの協働のもと、継続して統計ソフト(SPSS)のライセンス契約、クライアントPCの入れ替え、およびターミナルサーバ環境の改善を行った。また、新システム(シンクライアントシステム)の導入準備として、特別説明会(1回50分)を3回開催し、より多くの学生が講習会を受けることができるよう配慮した。このことから、今年度の学生との合同情報システム委員会では、新システム(シンクライアントシステム)導入をスムーズに行うために、各学年の委員を窓口とし学生全員に対する導入の周知徹底を図るとともに、新システム移行後の利用状況に関する意見を聴取した。また、論文提出時期の4年生に対するコンピュータルーム優先席の設定を行うことができた。

以上のような委員会活動を通して、学生や教員という利用者の立場と、ネットワークを管理・運営する立場からの意見を統合しながら委員会を運営することができ、本学ネットワークの適切な運用に意義ある活動が行えたと実感している。

2. 情報システム環境の整備内容

本年度における情報システム環境整備の中心は学生利用環境の改善（シンクライアント・システムの稼働）であった。

シンクライアントとは、シン(英語で **Thin** : 薄い・軽い)という意味からも想像できるようにクライアント側のコンピュータは“軽く・薄く”するためにハードディスクやメモリ等を搭載せず（もちろんアプリケーション・ソフトなどの機能もない）、従来クライアント側に備えていたほとんどの機能をサーバ側に集約したクライアント・システムである。

このシステムのメリットを下記にあげる。

<メリット>

- ・アプリケーション・ソフトの更新や修正プログラムなど迅速な対応が可能

本学には学生用クライアント・パソコンとして約200台が設置されている。従来のシステムでは、クライアント側に OS やアプリケーション機能が備わっていたため、ソフトの更新やバージョンアップ、セキュリティ・パッチのインストールは、1台ずつ設定・確認作業が必要であったため、作業完了までにかかなりの手間と時間がかかった。

シンクライアント・システム化の導入により、今後これらの作業は機能を実装しているサーバ4台のみに行えばよいため、更新時間の大幅な短縮が期待できる。

- ・システムの保全や情報漏洩等のリスクを回避するためのセキュリティ強化

従来のシステムではクライアント側に機能が備わっていたため、セキュリティ対策としてすべてのクライアント・パソコンにウィルス対策ソフトをインストールすると同時に、OS のバグ対策（セキュリティ・パッチの対応など）が必須であった。

また、ウィルス対策ソフトの機能をフルに活用するためには、パソコンごとにこのソフトのパターンファイルが最新版に更新されていなければならないという条件もあり、本学のよりに夏季休講期間など長期にわたって学生のパソコン利用率が下がる時期にはパターンファイルの更新が行われないことが原因で次回利用したユーザが新型のコンピュータ・ウィルスに感染してしまうという危険もあった。

シンクライアント・システムではクライアント側に機能や情報を持たせないため、基本的にはウィルス対策ソフトや OS のバグ対策も不要であり、かつ、データをローカルに保存できないためウィルス感染による情報漏洩などの危険性もほとんどなくなった。更にクライアント機能を集約したサーバ側にウィルスを検知・駆除する機能を一元化したことにより、パターンファイルは常に最新の状態を保つことができるため、従来に比べて学生ユーザがウィルスに感染する危険性も大幅に減らせる。

- ・コスト削減

前述したように、アプリケーション・ソフトのバージョンアップ作業や OS のセキュリティ・パッチ対応、ウィルス対策ソフトのインストールなどの作業負担の軽減はもちろんのこと、ハードウェアに関しても一部のクライアント・パソコンを除けばクライアント側にハードディスクやメモリを搭載していないため、部品劣化による故障率も大幅に減ると予想される。このことから、メンテナンスに係るコスト削減もできる。

しかし、シンクライアント・システムはサーバ負荷の大きな処理には向かないため、今後は授業における SPSS の利用や e-learning 活用時の対策が必要である。

なお、このシンクライアント・システムを実現するために購入したクライアント・パソコンは、平成20年度文部科学省私立学校施設整備費補助金により補助を受けて整備したものである。

下記にその内容を示す。

| パソコン設置場所 | 型番・仕様等 | 数量(台) |
|-------------------------|--------------------|-------|
| 本館4階コンピュータールーム | Wyse製 Winterm V10L | 40 |
| 本館2・3階図書館 | Wyse製 Winterm V10L | 24 |
| 本館地下実習準備室 | Wyse製 Winterm V10L | 1 |
| 2号館2階メディアルーム | Dell製 Vostro 1000※ | 61 |
| | Dell製 Optiplex 740 | 2 |
| 2号館6階修士ラウンジ1 | Wyse製 Winterm V10L | 6 |
| | Dell製 Optiplex 740 | 1 |
| 2号館6階修士ラウンジ2 | Wyse製 Winterm V10L | 6 |
| | Dell製 Optiplex 740 | 1 |
| 2号館7階博士ラウンジ | Wyse製 Winterm V10L | 6 |
| | Dell製 Optiplex 740 | 1 |
| 2号館8階修士ラウンジ | Wyse製 Winterm V10L | 6 |
| | Dell製 Optiplex 740 | 1 |
| ※シンクライアント用ノート型 PC として利用 | | 156 |

3. 教育研究活動への対応の現状と将来構想

本学の情報システムは、サーバーの容量を向上させることにより、一元化した利用環境の管理やファイル保存機能の設定が可能となり、メールサーバーの機能も向上した。この規模の大学としてはかなり充実した機能を有しており、本学の質の高い教育・研究レベルを支えていると評価できる。

現在の充実した機能とシステムのセキュリティを確保・維持し、さらにリポジトリ機能などの拡張を考えるためには、相応の管理機能が必須である。しかしながら、現在もまだシステム管理は派遣職員(SE)が中心となって、専任の部門や職員が存在しない。このことは、大学の教育・研究機能の発展には不可欠なシステム機能について統合的なビジョンを持って恒常的に関心を払う存在が固定化されていないということである。情報システムのネットワーク運営・管理とその発展に向けて専門的な知識を持ち、かつ大学の情報について明確な責任を持つ専任スタッフが不可欠であることを強調したい。

本年度は委員会規定および倫理規定が大学の懲戒規定との整合性を考慮して整備された。これによって委員会の権限は一応明文化されたが、前述したように、大学全体のビジョンの中で、明確な権限と責任を示すには至っていないと考えられる。

本学が早急に取り組むべき課題は以下である。

-
- 1) 情報システムのネットワーク運営・管理とその発展に向けて専門的な知識を持ち、かつ大学の情報管理について明確な責任を持つ専任スタッフ、および組織が不可欠であること
 - 2) 上記と関連して、大学全体の教育活動や予算と連動し整合性を持った情報システム整備計画を策定すること

本学の教育・研究活動をより活性化させ、機能を向上させることに、情報システム委員会の活動が寄与することを願っている。